

# Glocal Tenri



3

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.18 No.3 March 2017

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
ナラティブとおたすけ  
／高見宇造..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (114)  
勢山文書⑤「おさしづ」の写し翻刻  
／安井幹夫..... 2
- ・ 『教祖伝』探究 (33)  
秀司様②  
／深谷忠一..... 3
- ・ 「おふでさき」天理言語学試論～「こと」  
的世界観への未来像～ (35)  
第5章 高橋和巳と『邪宗門』①  
／井上昭夫..... 4
- ・ 「元初まりの話」に登場する動物たち (19)  
「引き出し」としての「くろぐつな」①  
／佐藤孝則..... 5
- ・ 日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道  
の様相 (3)  
戦前のアメリカ伝道と日系移民社会②  
／尾上貴行..... 6
- ・ 「おふでさき」の標石的用法 (19)  
動詞について④  
／深谷耕治..... 7
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (22)  
第2巻における「本席・家族」に関する  
伺いと「道」  
／澤井治郎..... 8
- ・ 地域福祉を拓く ―新たな寄付文化の創造  
― (27)  
ファンドレイザー  
／渡辺一城..... 9
- ・ 遺跡からのメッセージ (21)  
イスラエルの遺跡調査⑦ 日本調査団の  
原点、テル・ゼロール遺跡  
／桑原久男..... 10
- ・ 天理参考館から (10)  
2017年新春展「紙で遊ぶ世界―折紙とお  
もちゃ絵―」の紹介②  
／幡鎌真理..... 11
- ・ 現代宗教と女性 (13)  
「婦人宣教師」登場の背景  
／金子珠理..... 12
- ・ 平成28年度公開教学講座要旨：現代の事  
情に対する天理教の思案 (4)  
都市化と過疎化―宗教浮動人口の行方―  
／岡田正彦..... 13
- ・ English Summary..... 14
- ・ おやさと研究所ニュース..... 15  
第299回研究報告会(高見宇造)／第61  
回伝道研究会／平成28年度「公開教学  
講座」／平成29年度公開教学講座の  
案内／第8回伝道フォーラム開催のお知らせ

## 巻頭言

### ナラティブとおたすけ

おやさと研究所長 高見宇造 Uzo Takami

去る2月5日、京都大学人文科学研究  
所主催のシンポジウム「医療人類学にと  
つてナラティブとは何か？」が開催され参  
加をしました。「ナラティブ (narrative)」  
とは文字通り「物語」の意味ですが、心理  
療法やソーシャルワークの世界で有力なモ  
デルであると言われています。その理論的  
基盤は「社会構成主義」といわれますが、  
「現実社会的に構成されたもの」「現実  
は人と人の対話を通じてつくられるもの」と  
いう考えが基礎になっています。

私たちは日々の生活の中で出会う出来  
事や経験などにすべて自分なりの意味付  
けを行い、「～として」という形で受け取  
ります。つまり同じ一つの現実でも経験  
や価値観、また周囲の反応により人は異  
なった受け取り方をしますが、それはあ  
たかも「一つの物語のような形」を取  
ります。一定の流れを持った物語を生きる  
ことで、その人生は安定したものになり  
ますが、自分や家族に予期しない病気や  
事情というアクシデントが生じると、そ  
れまでの自分の物語に組み込むことが出  
来なくなります。自分の物語がもはや通  
用しないことに気付いても、その物語を  
書き換えることは容易ではありません。  
そこでこの新たな物語の「書き換え」を  
支持するアプローチが「ナラティブ」で  
あると私は理解しています。

このシンポジウムでは、①「物語を相  
対化すること、ない物語を描くこと～拒  
食と過食、循環器疾患のフィールドワ  
ークを通じて」(磯野真穂氏・国際医療福祉  
大学)、②「見る・聴く・たたく・交わす  
―北海道浦河ひがし町診療所ナイトケア  
「音楽の時間」から」(浮ヶ谷幸代氏・相  
模女子大学)、③「性にまつわる「語られ  
なかつた物語」―HI V陽性者の語りをめ  
ぐる分析から」(新ヶ江章友氏・大阪市立  
大学)、④「心理療法における「聴き書き」  
をめぐって」(階藤章氏・京都大学)とい

う発表があり、当事者の物語について紹  
介されましたが、会場は大勢の文化人類  
学者、心理学者、医学者の参加者で一杯  
になり、関心の高さを示していました。

ところでこの物語の書き換えは一人で  
出来るものではありません。それでは同  
じ処をぐるぐる回るからです。そこで他  
者との会話が必要になります。人間が作  
る物語は本人の一定の選択によって選ば  
れたものから形成されます。取り込まれ  
ることなく放置されたものの中に、新た  
な書き換えの素材となるものがあると考  
えなければなりません。この書き換えを  
促してくれるのは、実は同じ体験を抱え  
た人になります。

私はこのシンポジウムを通して「ナラ  
ティブ」の考え方は、天理教の「おたす  
け」を説明するものではないかと考えて  
みました。誰もが長い人生の中では物語  
を書き換えなければならないときがあり  
ます。しかし容易なことではありません。  
これを「おたすけ」と考えればどうでしょ  
う。そうすると相手の描く物語を聴き出  
し、共に書き換える作業のお手伝いをす  
る、それがおたすけになります。そこ  
にはお手本が当然、必要になるでしょう。  
「ナラティブ」の考えを援用すると、私  
たち信仰者は、教祖のひながたという  
「物語」を教えて頂いていることになり  
ます。例えば、『稿本天理教教祖伝逸話  
篇』には人生の物語を書き換えた先  
人のお話がたくさん載せられています。

「たすけ一条の理は渡してある。話一  
条は論しある」(M23・6・17)とありま  
すが、時に私はなぜ、「話一条」と言  
われたのか理解できないことがありま  
したが、これを「物語」に置き換  
えると成る程と得心が出来ます。私  
たちのおたすけをこうしたア  
プローチで考えると、またその視  
界が開けてくるように感じました。  
これからも大いに注目したいと思います。